

新約聖書の中の奥義④

聖書フォーラム 福岡集会
2020年10月17日

出典：MBS182 “The Eight Mysteries of The New Testament”
Arnold G. Fruchtenbaum TH.M.,PH.D.

この学び全体は、5つの部で構成 P.1

1. イントロダクション
2. 奥義としての神の国
3. 教会に関する5つの奥義
4. イスラエルがかたくなになることに関する奥義
5. サタンの2つの奥義と

それを打ち破る神の8番目の奥義

第一部での重要ポイント

奥義 = ギリシヤ語の**ムステリオン**

新約聖書の中での**ムステリオン**は、特別な用語
 旧約聖書においては啓示されていなかったが、
 新約聖書において初めて明らかにされたこと
 奥義の啓示は、使徒たちと預言者たちに
 特に使徒パウロは、「神の奥義の管理者」

第二部のアウトライン

P.1

A) 神の計画における「神の国」

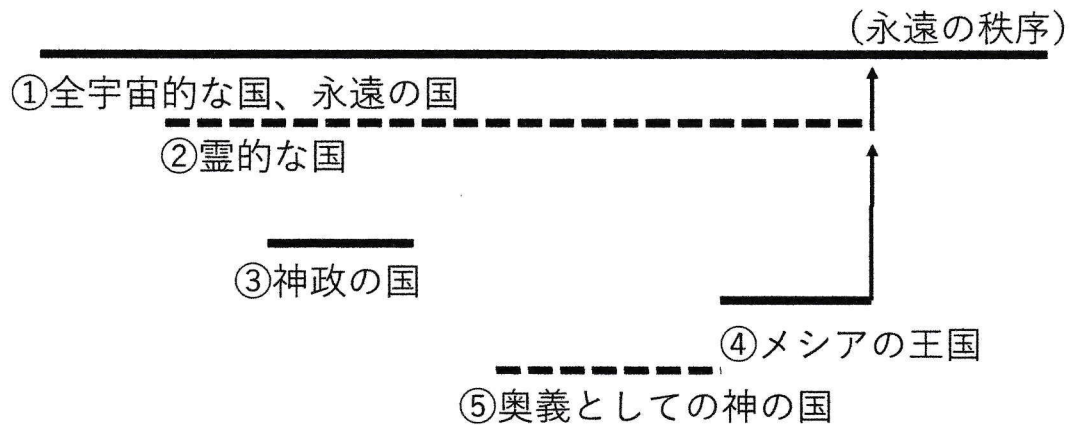
B) 神の国がもつ5つの層

1. 全宇宙的な国、または永遠の国
2. 霊的な国
3. 神政の国
4. メシアの王国、または千年王国
5. **奥義としての神の国**

本日はB-5

神の国は**多層構造**、**5つの層**

P.1



前回のポイント

P. 2

1. 神の国は**多層構造**、5つの層

- ① 聖書箇所を比較すると、一見矛盾・・・マルコ9：1
 神の国は**目に見える**、ルカ17：20～21 神の国は**目に見えない**

- ② **矛盾ではなく、別々の層**

2. 5つの層のうち、4つは旧約聖書でも知られていた。第5番目の層だけが、奥義

本日のアウトライン

P. 2

1. 「奥義としての神の国」の定義
2. 「奥義としての神の国」のたとえ話
3. 9つのたとえ話のまとめ
4. 他の4つの層との区別、教会との区別
 4は、次回に復習をかねて扱います
 本日は、1. ～ 3. です

「奥義としての神の国」用語の由来 P. 2

1. マタイ13：10～11 「**天の御国の奥義**」 天の
 御国＝神の国 → 神の国の奥義 神の国
 について、まだ知られていなかった層 ⇒ **奥義**
 としての神の国
2. **キリスト教界**
 - 聖書の用語ではない
 - キリスト教関係であることを標ぼうするすべての団体を包括
 - 正誤が混合する状況は、まさにマタイ13章での描写その通り

「奥義としての神の国」の始まりと終り P. 2

1. **イスラエルのメシア拒否**（マタイ12章）
2. イスラエルのメシア受容→メシアの再臨
⇒ 大患難期は終結し、75日間の準備期間
諸国民の裁き（預言マタイ25：31～46）

教会時代との関係

P. 3

1. **奥義としての神の国**は
イスラエルのメシア拒否 から
諸国民の裁き まで
2. **教会時代**は、使徒2章の**聖霊降臨**から**携挙**まで
3. **キリスト教界**は、**教会時代開始**から間もなく
から**大患難期の前半期**（**世界統一宗教**）まで

「奥義としての神の国」 どのような国か？ P. 3

マタイ13章、マルコ4章、ルカ8章

9つのたとえ話

・・・「奥義としての神の国」の特徴を教える

第一 種まきのたとえ話

P. 4

マタイ13：3～32

1. この国の特徴は、福音の種まき
2. 種まきは、3つの妨害を受ける
 - ① 鳥（サタンとその配下の悪霊たち）
 - ② みことばのための困難や迫害
 - ③ この世の思い煩いと富の誘惑
3. 種まきは、4つの応答を受ける
 - 第一は不信仰、あとの3つは信者の応答

第二 まかれた種は自ら育つ

P. 4

マルコ4：26～29

1. まかれた福音の種は内部にエネルギーを持っている。それ自体の生命によって芽を出す
2. 芽を出すかどうかは、蒔いた人にはよらない
3. 蒔いた人は、種を蒔いたら、その後は、何もすることはできない

第三 毒麦のたとえ話

P. 4

マタイ13：24～30

1. 真の種まきに対抗して、偽の種まきも
2. 真の種も偽の種も、それぞれ成長していく
3. 成長の段階では区別されない。どちらの実を結ぶかどうかで、区別される。

「わたしの倉に納める」 = メシアの王国に入れる

第四 からし種のたとえ話

P. 4

マタイ13：31～32

1. この国は、拡大成長する
2. 空の鳥たちが来て、巣を作る・・・鳥は、サタンとその配下の悪霊たち
3. キリスト教界の中には、イエスを信じると言いながら、本質的な教えを否定するような団体が現れる

第五 パン種のたとえ話

P. 4

マタイ13：33

1. 女性が象徴的に用いられるときは、霊的あるいは宗教的な集団を指す
2. パン種は、罪の象徴。特に、マタイの福音書では、誤った教え
3. 「3サトンの粉」とは、キリスト教界の3つの主要な組織体を暗示する

第六 隠された宝のたとえ話 P. 4～5

マタイ13：44

1. 「宝」、旧約聖書ではイスラエル民族を象徴
2. イスラエルの大部分はメシアを拒否したが、神はイスラエルに少数の信仰者を残しておられる。
彼らは、レムナント、イスラエルの残れる者である
(ロマ11：5)
3. よって、このたとえ話の「宝」は、奥義としての神の国の時期におけるレムナント。「神のイスラエル」
(ガラ6：16) と呼ばれるユダヤ人信者たち

第七 高価な真珠のたとえ話 P. 5

マタイ13：45～46

1. 「真珠」、旧約聖書では象徴するものはない。教会の信者は、ユダヤ人信者と異邦人信者から成る。前のたとえ話がユダヤ人信者についてであれば、今度は異邦人信者
2. 真珠は海から採られる。「海」は、**異邦人世界**を象徴する
3. 46節の「**真珠**」は1個である。真珠が貝の中で徐々に形成されるように、**異邦人信者**の数も徐々に増していく。その数が満ちたとき（ロマ11：25）、教会は完成し、携挙される

第八 地引網のたとえ話

P. 5

マタイ13：47～50

1. 「**海**」は、**異邦人世界**を象徴する
2. 奥義としての神の国は、**異邦人の裁き**をもって終了する
3. 預言 マタイ25：31～46 （次のスライド）

第八 地引網のたとえ話

P. 5

預言 マタイ25：31～46 正しい人たちは御国へ

- 「すべての国の人々（**諸国民**）」（32節）
- 聖書で「諸国民」、イスラエル民族以外の異邦人
- 聖書で「正しい人」、信仰によって義と認められた人＝信者
- 再臨のメシアにより、諸国民が信者と不信者に分けられる
- 大患難期の異邦人信者は、その時期に迫害されるイスラエル民族を助けるという具体的行動で、その信仰を表す
- メシア再臨の前に、イスラエル民族は全員が救いを受けて信者となっている → イスラエル民族は裁きの対象ではない

第九 家の主人のたとえ話

P. 5

マタイ13：51～52

1. 「新しい物」 = 奥義としての神の国
新約聖書で初めて啓示された
2. 「古い物」 = 神の国のほかの4つの層
旧約聖書でも知られていた
3. 神の国の弟子となった学者は、神の国の5つの層を理解する。それは、一家の主人が、自分の倉から新しい物も古い物も自由に持ち出して、それぞれ正しく用いることができるようなもの

9つのたとえ話のまとめ

P. 5

1. 福音の種まきが行われる
2. まかれた種は、自ら芽を出し、育つ
3. 対向して偽の種まきも行われる
4. 大きく成長するが、怪物のようなものになる
5. 内面的、教理的に腐敗する

9つのたとえ話のまとめ

P. 5～6

6. しかし、神の計画は進む。イスラエル民族の中から、少数の信仰者が残される
7. 異邦人の中からも信仰者が起こされていく
8. 奥義としての神の国は、諸国民の裁きをもって終わる
9. 神の国について学ぶと、古くから知られていた4つの層と新しく啓示された5番目の層とを理解することができる。

2020/10/17